

神奈川大学餅つき大会



↑ 孫先生と留学生

新年好（あけましておめでとう！）ということ
で、我々中国語学科は、国際交流の一環として今
年二〇一六年一月八日に餅つき大会を国際センタ
ーで無事開催することができました。関係者皆様、大
会にお越しくださった皆さま本当にありがとうございます
です。今回第一回目にもかかわらず、関係者を含め
八十人もの人が大会に参加してくださり感泣至極で
す。では、何故餅つき大会を開催したのか、それと
今回の餅つき大会の様子をぜひご覧ください。

お正月におもちを食べる、何百年も前から我々
日本人が行っているこの習慣。お正月にやっつてく
る神様にそなえ、神様と一緒に食べることにより
一年の幸せを得る（神人共食）という説があるそ
うです。

私も小さい頃からの習慣になっていたのですが、疑
問に思うことがありますでした、こんな説があつ
たのですね。さて、説も知らずに私が20年食べて
きたこのお餅、きつとどこのお家でもお正月にで
てきては正月気分を味わわせてくれているのでは
ないでしょうか。

今は簡単にスーパーでお餅が買える時代ですよ
ね、私もよくきり餅を買いに行きます、大きい消
しゴムみたいなやつです。しかし、説が本当なら
我々日本人は工場がぼんぼん出したお餅に神様を
やどしそのお力にあやかっていると、ずいぶん
お粗末な話です。八百万の神がいると言われてい
る日本でも神様が足りないくらい、工場からぼん
ぼん餅がでできます。そう考えると、果たして私



↑ 日本人学生のみなさん

のお餅には神様が降臨しているのでしょうか。否、
きつとしていないことでしょう。

外国語学部 中国語学科3年

甘利 祥汰

今年が神様のためにお餅をつきます。長くなってしまいました。せつかくのお正月を、しかも日本の文化を学びに来た留学生の友人たちと過ごせるお正月があるならば、スーパーで買ったお餅ではなく自分たちの手で、あわよくば神様にも食べてもらおうじゃありませんか。ということ。で神奈川大学初となる餅つき大会を開催いたしました。

さて、今回の餅つき大会の参加者には男女の比率がバランスよく女性の参加者も多くて、たいへん光栄なことでありました。そして、多くの男性参加者は我こそはと杵を手に臼にかけよってくれ、餅の完成、神様の降臨に尽力してくれました。女性参加者たちの中には初めて生で見る餅つきや、臼や杵の無骨さに畏縮している人たちもいました。しかし、杵をもち初めてお餅をついた瞬間、あのお餅がもつ独特な感触にはまったのでしょいか。二回目を叩くべくみな楽しそうに杵をふりあげていました。誰一人として嫌な顔をしている人はおらず、みんな笑顔で餅を叩いてくれました。初めて餅つきを、もしくは初めて大勢の友達と、楽しそうに餅つきをしている私たちのところへ、ひよつとしたら神様が来てくれたかもしれないですね。最後に、今回第一回目の反省点はいくつもあり、場所の確保・準備、人員の配置、当日の進

行どれも慌ただしくスマートにこなすことができずでした。楽しい思い出もたくさん作ることができましたが、それと同じくらいまずく度にいるんな人に助けられた、そんな思い出もあります。特に人文学会の設楽さん、国際センターの杉本さん、ISCAのみなさま本当に世話になりました。自分の中ではもっと盛り上げることができたな、と思うので悔しさもあります。

しかし、今回の反省点を生かせる二〇一六年の翌年、翌々年の餅つき大会はより良いイベントになるとも信じています。この先も餅つき大会をよろしくおねがいたします。最後にもう一度、関係者の皆様、大会にお越しくくださった皆さま本当にありがとうございました。



↑最後に八十人全員で記念撮影